

現代日本語の色彩語彙に関する調査と分析

——メディア芸術系学生の事例——

松中義大

基礎教育課程

An Analysis of Modern Japanese Color Terms: A Case Study of How Many Color Terms Students of Media Arts Know

MATSUNAKA Yoshihiro

Division of Liberal Arts and Science

(Received October 31, 2017; Accepted December 21, 2017)

キーワード：基本色彩語彙、色名、現代日本語、自由想起

Abstract

This paper discusses the usage of color terms in modern Japanese; especially how many color terms the students of media art have in their vocabulary. The author conducted a questionnaire-based research in which 198 participants were asked to recall any color term as many as possible. The result showed that; 1) the average number of recalled color terms was 25.35 (max 46, min 10), whereas the total number of color terms recalled by all informants was 346; 2) all 11 basic color terms proposed by Berlin and Kay (1969) were included in the 13 most frequent terms, and thus this paper confirms their basic color term theory; and 3) *mizu-iro* (color of water; light blue) and *ki-midori* (yellowish green) were more frequent than a basic color term of pink which was the least frequent in Berlin and Kay's 11 basic color terms, and thus they can be considered to be the basic color terms in modern Japanese.

1 はじめに

本稿では、現代日本語の色彩語彙について、特にメディア芸術系学生を対象とした調査・分析を論ずる。視覚系に対する刺激が何らかの色として知覚されることは、どの言語話者であっても共通の事象である。しかしながら、その知覚された色に対して、命名される様々な色名（色彩語彙）は言語間で多様性に富んでいる。これは、ある言語及びその使用者（さらにはその言語社会・文化）がどのような色彩語彙を持っているか、また、その体系がどのようなものか、という点で、言語学においても興味深い研究分野であると言える。

色彩語彙に関する代表的な研究として Berlin and Kay (1969) がある。彼らは、言語学的・民俗学的調査研究に基づいて、世界の言語は共通の色に関する分類体系を持ち、諸言語に共通する11種の基本色彩語が存在すること、そしてそれらの階層構造を次に示すように提唱した。

[white, black] < red < [green, yellow] < blue < brown < [purple, pink, orange, grey]

“<”は、仮に“X<Y”とした時、Yの語彙を持つ言語はXの語彙も持っていることを意味する。例えば、ある言語に“blue”に相当する色彩語彙がある場合、その言語には“white, black, red, green, yellow”がある、ということである。例えば、この階層の第一段階である white と black のみを色彩語彙として持つ言語がコンゴやパプアニューギニアに存在することが知られている。

日本語の色彩語彙は、この基本色彩語すべてを含んでいる。そしてその全体像は様々な色名辞典や、JIS規格に規定されたもので示されているが、近江(2007)では、現代日本語話者における色彩語彙の普及度について論じており、Berlin and Kayによって提唱された基本色彩語が現代日本人においても想起率が高いことが示された。また、富永(1991)や、小野・堀内・富永(2010)は、アンケート方式による想起色名の調査を行い、以下の(1)から(3)の結果を提示した。

- (1) Berlin and Kayの基本色彩語彙11語は日本語でも基本的な色彩語彙である。
- (2) これに加えて、金、銀、水、黄緑を含めた15色は安定した色彩語彙の集合を形成する。

- (3) 反対色応答の三対（白／黒、赤／緑、青／黄）は特に重要度の高い色名である。

このような一般成人を対象とした調査のほか、近江(2008a)では絵画系学生および伝統的染色技能者を対象とした調査が行われ、主な結果は次のとおりであった。

- (1) 油画学生では、想起率1位がコバルトブルー(73.0%)で、一般日本人の1位が赤(92.4%)だったことと比べて、低率である。
- (2) 現代日本人が上位14位までに基本色彩語彙11語が出現するのにに対し、油画学生では、14位から52位までに出現する。ただし、上位6位までのコバルトブルー・ビリジャン・カドミウムレッド・シルバホワイト・カドミウムイエロー・ピーチブラックという油絵の具の色名が、それぞれ青・緑・赤・白・黄・黒に対応するとすれば、基本色彩語の上位階層の色名が上位を占めている、とすることが出来る。
- (3) 日本画学生では、想起率1位は赤の76.9%で、やはり一般日本人に比べると低率である。
- (4) 日本画学生では、基本色彩語彙11語は、上位23位までに含まれる。これは、基本色彩語の最下位までに、それ以外の色彩語が12含まれることになる。
- (5) 伝統的染色技能者（呉服の染色を専業とする）では、基本色彩語彙の想起率は最低でも80%で、一般成人では最下位の灰色の62%を上回っており、これらの語彙が根強く浸透している。

このように、特に絵画系学生は一般日本人とは異なる調査結果が示されている。本研究では、上記の先行研究を元に、メディア芸術系学生を対象にして調査を実施した。なお、ここで言う「メディア芸術」とは、伝統的な絵画や彫刻などとは異なり、新しく発明された技術をメディアとして利用する、あるいはそうした技術に触発された芸術表現を意味し、具体的には、写真や映画、アニメーションなどを指す。調査の観点としては、絵画系学生や染色技能者のように、色について一般の日本人よりも接触頻度が高い場合に異なる調査結果が出るとするならば、メディア芸術系学生においても何か特異な結果が得られるかどうか、という点である。次節以降では、調査方法及び結果について述べる。

2 調査方法

東京工芸大学芸術学部生で、筆者が開講している基礎

教育系科目の受講者のうち、調査への参加に同意した学生を対象とした。人数は198名（年齢18～25歳、男：115名、女：83名）であった。人数に多少ばらつきはあるものの、全学科（写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、マンガ、ゲーム）の学生から回答を得た。なお、母語が日本語以外の留学生からも回答が得られたが、今回の分析からは除外し、母語が日本語と回答した学生のみを対象とした。

調査方法は、調査用紙を渡し、「思いつく限りなるべくたくさん色の名前を書き出して下さい」と指示を与え、記入させた。その際、調査環境の違いによる影響を極力排除するため、周囲の環境を見回して色を探することはしないよう注意を与えた。制限時間は5分とした。

回答は自由記述のため、分析前に以下のような処理を行った。

- (1) 漢字、ひらがな、カタカナによる表記の違いは無視し、同一の色名とした。
- (2) 和名と洋名の違いについては、なるべく多くの色名を収集するため極力統合しないこととしたが、ほぼ同一の意味として定着している数語は同一の色名とした（例：青とブルー、赤とレッド、黄とイエロー）。ただし、より細分化された名称は別個の色名として扱った（例：ワインレッド、カーディナルレッドなど）。
- (3) 「虹色」「極彩色」など単一の色を指示しない語や、「北野ブルー」のような具体的な色名とは言えない回答は除外した。
- (4) 洋名表記のずれは統合した（バイオレットとヴァイオレット、サーモンピンクとサーモン・ピンクなど）。
- (5) 色名のサイトや、google検索でヒットしない色名は除外した（キャベツグリーン、呉港グレーなど）。

3 結果と考察

想起された色彩語彙は合計で346語だった。付表1に上位93位までの101語の回答数及び想起率を示す。回答者ごとの平均値は25.35語、中央値は25語、最大値は46語、最小値は10語であった。近江(2007)では、一般日本人の場合、平均34.9語、最大値63語、最小値11語という結果が出ており、近江(2008a)では、絵画系学生は平均47、最大75、最小14、伝統的染色技能者は平均87、最大123、最小50という結果が出ている。いずれの結果も本研究で得られた値よりも大きくなっている。これらの先行研究では、回答時間を10分、ただし延長を認めて平均所要回答時間は15分だった（伝統的染色技能者の場

合は時間制限無し)としていて厳密な時間制限をしていない。一方、本研究では回答時間を5分に制限したので、値に差が出たと考えられ単純な比較は難しい。

想起された色彩語彙の合計数については、一般の日本人を対象とした近江(2007)では言及がないが、この研究に基づく近江(2008b)では、総数が300弱と言及されており、本研究の方が上回っている。また、伝統的染色技能者を対象とした調査(近江(2008a))では、得られた色名の総数は248語だとされており、本研究の方が上回っている(残念ながら絵画系学生については総数のデータは示されていない)。なお、小野他(2010)では、これらに関する数値は言及されていない。このことから、本調査の回答者群であるメディア芸術系学生は総体としては多様な色彩語彙を想起していると言える。一般日本人の場合(近江(2007))、想起率3%以上の色彩語彙は104語だが、本研究では想起率3%以上は92語となっている。すなわち、想起率3%未満(想起した回答者が5人以下)の色彩語彙が254語となり、広範な色彩語彙が含まれていることになる。これは以下の2つの事項に起因すると考えられる。第1に、洋名に関しては、下位分類が多く見られ、それにより語彙数が増えている。例えばブルーに関しては、次の27語の下位分類があった。

アクアブルー、インディゴブルー、ウルトラブルー、エメラルドブルー、オーシャンブルー、カプリブルー、クリアブルー、コバルトブルー、コランダムブルー、サブマリブルー、スカイブルー、セルリアンブルー、ダークブルー、ターコイズブルー、ネイビーブルー、パーマメントブルー、パステルブルー、ピーコックブルー、ブルーブラック、プルシャンブルー、マジョリカブルー、マリブルー、ミントブルー、メタリックブルー、ライトブルー、ロイヤルブルー、ロシアンブルー

第2に、こうした多様な洋名の一方で、和名に関しても、想起率は高くないものの日本の伝統色と考えられる語彙が多く挙げられている。例えば、想起した回答者が2人以下で見えていくと、次のような語彙が散見される。

えび茶、朽ち葉、新橋、朱鷺、濡れ羽、榛(はしばみ)、檜皮(ひわだ)、一斤染め、移し、銀鼠、翠(すい)、蘇芳(すおう)、丹(に)、灰桜、花緑青、白群、利休茶、蠟梅、勿忘草

これらは、特定の学科や回答者に集中した回答ではなく、複数の学科・回答者に分散しており、調査回答者群の色

に対する興味・関心が極めて多様であることが伺える。

なお、回答者が在籍する学科によって平均値に差があったが、分散分析を行った結果、有意な差は見られなかった($F(6,191)=1.20$ ns.)。さらに、回答者の性別によっても平均値に差が見られた(男性:24.08、女性:27.11)。分散分析を行ったところ、女性の平均値が有意に高かった($F(1,196)=11.51$ $p<.01$)。このことから、女性の方が色彩語彙が豊富であるということが出来る。これが何に起因するのかは、今後の研究課題である。

基本色彩語彙理論に関しては、基本色彩語彙11語は上位13位までにすべて含まれており、この理論の妥当性は本研究でも確認されたと言える。想起率1位の黄色でも100%に達しないのは、再生法の限界と考えられ、再認法によって確認することが必要かもしれない。近江(2008a)では絵画系学生の色名想起の特異性が論じられたが、本研究での調査結果はそうした特徴を示していない。むしろ、近江(2007)が示した一般の日本人の回答傾向(基本色彩語彙が上位14位までに含まれる)に近似している。これは、油絵の具の色名のように、特定の分野に特化した色名がメディア芸術においては見られないということなのかもしれない。ただし、プリンターのインクやトナーの色名として採用されている「シアン」「マゼンタ」が上位50色に含まれている点は、本調査回答者群の一つの特徴とも考えられるが、家庭でのカラー印刷の普及によって一般日本人にも定着してきているとも考えられ、コーパス等での分析が必要だろう。

基本色彩語彙11語は上位13位までに出現することは既に述べたが、基本色彩語彙の中で最下位13位のピンクより上に出現する基本色彩語彙以外の色名は、水色と黄緑だった。この2色は日本語では基本色彩語彙と並んで定着している色名と考えられる。これは幼少の頃から慣れ親しんだ色名ゆえと言えるだろう。日本で市販される色鉛筆やクレヨンのほとんどで、小学生がよく使う限定された12色のセットでもこの2色が含まれているので、基本的な色名として認識されているのだろう。また、小野他(2010)では、基本色彩語彙11語に水色、黄緑、金、銀を加えて15色が日本語では安定した集合となっていると論じられている。本調査では、水色、黄緑に加えて14、15位に金、銀が入っており、この主張を支持する結果となっている。

4 終わりに

本研究では、メディア芸術系学生の色彩語彙について、想起した色彩語彙を自由記述させるアンケート方式によって調査した。調査結果からは、Berlin and Kayが提唱した基本色彩語彙理論の妥当性が確認された。さらに、彼

らが提唱した11の基本色彩語に加えて水色と黄緑が現代日本語では基本色彩語と考えることが出来るかもしれない。この2色が基本的な色彩語となった原因については、初等教育などでよく用いられるクレヨンや色鉛筆、絵の具等に含まれるためと考えられるが、現代日本語における定着のプロセス等については今後の研究課題である。また、メディア芸術系学生を対象とした調査だったが、特異な結果は見られず、一般日本人を対象とした先行研究と近似した結果だった。ただし、本調査で得られた色名は和洋問わず多様性に富んでおり、メディア芸術系学生の色に対する興味・関心の高さが伺えた。

※本研究は、文部科学省私立大学研究ブランディング事業に基づく助成による。

参考文献

- 1) Berlin, Brent and Paul Kay. 1969. *Basic Color Terms: Their Universality and Evolution*. Berkeley, CA: University of California Press.
- 2) 近江源太郎2007. 「現代日本人に見られる色彩語彙の特徴 (1) 想起色名調査結果」『色彩研究』54 (2): 7-14.
- 3) 近江源太郎2008a. 「現代日本人に見られる色彩語彙の特徴 (2) 絵画系学生および伝統的染色技能者の事例」『色彩研究』55 (1): 1-6.
- 4) 近江源太郎2008b. 『色の名前に心を読む：色名学入門』研究社
- 5) 小野文路、堀内隆彦、富永昌治2010. 「現代日本人を対象とした色彩語彙の調査と分析」『日本色彩学会誌』34 (1): 2-13.
- 6) 富永昌治1991. 「現代色彩語彙の調査と分析」『日本色彩学会誌』15 (2): 119-126.

付表 1

順位	色名	回答数	想起率
1	黄	194	97.98
2	赤	193	97.47
3	黒	190	95.96
4	青	189	95.45
5	白	189	95.45
6	紫	186	93.94
7	緑	184	92.93
8	茶	170	85.86
9	水	156	78.79
10	黄緑	144	72.73
11	灰	132	66.67
12	オレンジ	125	63.13
13	ピンク	124	62.63
14	金	120	60.61
15	銀	120	60.61

16	肌	108	54.55
17	橙	95	47.98
18	藍	87	43.94
19	黄土	86	43.43
20	朱	82	41.41
21	紺	80	40.4
22	紅	78	39.39
23	桃	73	36.87
24	赤紫	68	34.34
25	深緑	65	32.83
26	こげ茶	57	28.79
27	山吹	56	28.28
28	マゼンタ	55	27.78
29	青紫	53	26.77
30	空	50	25.25
31	グレー	48	24.24
31	群青	48	24.24
33	ベージュ	47	23.74
34	エメラルドグリーン	42	21.21
35	シアン	41	20.71
36	ねずみ	33	16.67
37	うぐいす	32	16.16
38	桜	32	16.16
39	青緑	31	15.66
39	クリーム	31	15.66
41	カーキ	29	14.65
42	えんじ	27	13.64
43	赤茶	26	13.13
44	ワインレッド	25	12.63
45	コバルトブルー	24	12.12
46	銅	22	11.11
46	ネイビー	22	11.11
48	シルバー	21	10.61
49	浅黄	20	10.1
49	ゴールド	20	10.1
51	薄紫	19	9.6
52	レモンイエロー	18	9.09
53	サーモンピンク	17	8.59
53	若草	17	8.59
55	小豆	16	8.08
55	こがね	16	8.08
55	スカイブルー	16	8.08
58	すみれ	15	7.58
58	藤	15	7.58
58	レモン	15	7.58

58	緋	15	7.58
62	ターコイズブルー	14	7.07
63	ショッキングピンク	13	6.57
64	褐色	12	6.06
64	琥珀	12	6.06
66	抹茶	11	5.56
66	瑠璃	11	5.56
68	セルリアンブルー	10	5.05
68	モスグリーン	10	5.05
70	茜	9	4.55
70	エメラルド	9	4.55
70	ターコイズ	9	4.55
70	マリンブルー	9	4.55
74	アイボリー	8	4.04
74	薄紅	8	4.04
74	オフホワイト	8	4.04
74	辛子	8	4.04
74	玉虫	8	4.04
74	鈍	8	4.04
74	翡翠	8	4.04
81	うす橙	7	3.54

81	深紅	7	3.54
81	スカーレット	7	3.54
81	赤褐色	7	3.54
81	バラ	7	3.54
81	ビリジアン	7	3.54
81	ボルドー	7	3.54
81	萌黄	7	3.54
81	ライトグリーン	7	3.54
90	薄茶	6	3.03
90	カーマイン	6	3.03
90	若葉	6	3.03
93	うすピンク	5	2.53
93	きつね	5	2.53
93	栗	5	2.53
93	小麦	5	2.53
93	蒼(そう)	5	2.53
93	乳白	5	2.53
93	バイオレット	5	2.53
93	ミントグリーン	5	2.53
93	ライトブルー	5	2.53